

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100035		
法人名	社会福祉法人 さわらび会		
事業所名	グループホーム野バラ		
所在地	徳島県徳島市名東町2丁目456番地		
自己評価作成日	平成27年12月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年1月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の思いを傾聴しその人らしく過ごして頂ける環境作りに努めている。又、職員手作りによる数字・漢字合わせのパズルを提供することで、得意なことを毎日継続することができ脳の活性化に繋がっている。毎月の壁面を利用者と職員で協力して作成し季節感を感じてもらえるように支援している。音楽療法を毎月楽しみにされ、季節の唄、昔懐かしい唄を歌うことで、人生の思い出話を引き出す機会が持てている。一人ひとりの方が安心と安らぎのある生活を送って頂けるよう常になじみの関係を持ち人生の先輩であることを忘れず尊厳の気持ちを持って日々接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、利用者一人ひとりの生活歴や特性の把握に努め、利用者が趣味等を楽しみつつ穏やかに過ごすことができるよう支援している。利用者同士の会話や職員とのさり気ないやり取りが、利用者にとってだんらんの時間となっている。壁面には、利用者や職員の作品を掲示している。また、音楽の時間や書道等を取り入れるなどして、活動的な生活となるよう工夫している。事業所は、地域とのかかわりを大切に、介護や認知症の専門機関として情報の発信や相談を受けている。職員は、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念の実現に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			野バラ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が、常に念頭におけるように、分かりやすくし、見やすい所に掲示している。職員は理念に掲げている地域交流を実践できるようにしている。	事業所では、全職員で話し合っ地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念を掲げている。職員間で理念を共有し、支援の原点として捉えている。また、理念の見直しも行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事や地域活動への参加、保育園児や小学生との交流、近隣の方の面会等、関わりを持つことが出来ている。	職員は、地域の夏祭りや地域交流カフェのスタッフとして積極的に地域活動に参画している。ボランティアや保育所の子どもの来訪があり、利用者との交流の機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事参加を通じて事業所のことを理解してもらっている。事業所開催の勉強会の手伝いを行い地域の方の話を聞いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や活動、研修内容の報告を行い、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センターの職員から意見を聞き、気付きや再確認にも繋がっている。	運営推進会議では、利用者の状況や事業所の取り組み、行事報告を行っている。また、ヒヤリハット事例とその原因、対応等について報告を行っており、出席者から積極的に助言や意見を出してもらっている。出された意見は職員間で話し合い、事業所の運営面に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護・ながいき課担当の方に可能な時は実績報告を手渡している。わからないことは助言を頂いている。	職員は市担当窓口を訪問し、事業所の運営や活動内容を話し合うようにしている。また、課題等が発生した際には、電話で連絡をとるなどしてアドバイスや情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における勉強会を定期的開催し理解している。玄関を施錠せず開けるとチャイムが鳴るようにしている。	職員は、身体拘束の弊害について理解し、利用者の安全・安心を確保しつつ自由な暮らしを支援している。利用者の自己決定を尊重し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年間の勉強会に虐待防止を取り入れ、学んでいる。職員のストレス軽減やチームワークにも留意し、日々の利用者や職員の状態を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			野バラ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について年間の研修に取り入れて勉強している。運営推進会議でも話を行ったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得の上で契約している。改定の際は疑問を質問しやすいように、一人ひとりに説明を実施し理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を重く受け止め、できるだけ反映している。満足度調査を実施し改善につなげている。	日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりに寄り添い、本人の思いを大切にケアに取り組んでいる。家族の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに努めている。年1回、満足度調査を実施し、意向や希望を表出することのできる機会を設けている。出された意向等は、職員間で話し合って運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常業務の中で話し合いが出来ている。職員一人ひとりの意見を反映できる状況になっている。	管理者は、ミーティングや日頃の実践のなかで職員の意見やケアに対する提案を聞いている。また、年2回、個人面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、努力や実績を評価している。同時に面接を行い、話し合いも実施されている。また就業時間で終われるよう、随時業務の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内では毎月、勉強会を行っている、外部研修では希望にそって全職員が積極的に参加している。職員一人ひとりの話を聞き尊重している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人のグループホームとの交流行い問題点等相談し解決に対しての意見をもらいサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			野バラ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活背景や心身の状況を把握し、ゆっくりと聞き取りを行い、希望や不安を理解するよう努めている。家族からも本人の状況を細かく聞き、安心の確保に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に対する家族の思いや現状、求めていることを受け止めている。また希望を実践したり、不安を取り除いたりすることで、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内に施設サービスや複数の在宅サービスがある。医師や他事業所のケアマネジャーとも連携しながら、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、人生の先輩である利用者から様々なことを教えていただいている。助け合い、支え合う中で信頼関係ができ、家族のような温かい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め、相談し合える関係を築いている。本人の様子を伝える手紙、電話の支援を継続しており、とても喜ばれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた家に行ったり、古くからの友人に会ったり、また手紙や電話など様々な方法で支援を続けている。	利用者の知人や友人の来訪を受け入れており、来訪しやすい雰囲気づくりに配慮している。また、馴染みの理・美容院の利用を支援している。毎年、地域の文化祭等の行事に出かけるなどして、馴染みの人や場所等との関係の継続に留意した取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士のテーブル配置を行い関係づくりの支援を行っている。孤立しないように共有し関われるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			野バラ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ入居しても、面会に行くなど関係を継続している。家族にも相談の支援を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の意思を確認し、一人ひとりの思いや希望を最優先したケアを心がけている。困難な場合でも声かけは行い、難しい時は全職員で話し合い、より良い方法を検討している。	日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの視点に立って意向を把握するよう努めている。職員間で話し合って情報を共有している。意思の表出が困難な方には、家族や関係者等から情報を得るなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方を把握している。またセンター方式を取り入れ、新たな情報は書き足している。家族からの情報も参考にし、出来る事、関心のあることを活かした支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	多角的に注意深く観察し、一人ひとりのその日の心身状態を正しく理解できるよう努めている。特に認知症が進行している方は状態が定まらず不安定なため、変化を見逃さず全職員で情報共有し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望に沿うことを最優先し、ケアに関わっている全職員が話し合い、医師や看護師、栄養士、理学療法士の意見も反映している。	本人や家族の意向を尊重したうえで、医師や関係者等の意見を聞いて介護計画を作成している。定期的に職員間で介護計画の評価や見直しを行っている。利用者の心身状況に応じて、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化のあったこと等、介護記録に記入している。介護計画と記録を連動した形式にしており、見直しに活かされている。毎月、介護計画の実施状況を評価し、次月に反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の介助を行っている。また家族宅・美容院等への送迎も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			野バラ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護・看護学生の実習や保育所・小学生との交流等を積極的に実施している。消防署には避難訓練のほか、緊急時の対応等の勉強会をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に必ず確認して希望する病院に受診し、継続した治療と通院にも対応している。夜間の急な対応は嘱託医と連携し、診療情報の提供等を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力を得るなどして、専門科の受診も支援している。定期的に協力医療機関の医師による往診がある。夜間の緊急医療体制も整備しており、適切な医療を受けられるよう連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の来訪があり、バイタル測定や状態観察、相談を行っており、看護師は9名の利用者の状態を把握できている。また常に連携し、来訪や処置など対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはたびたび面会に行き、状況把握に努め、早期の退院を支援している入院時は、家族と相談し洗濯物を施設で洗う等、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員の連携体制や力量、他の利用者への影響などを考慮し、体制作りに取り組んでいる。重度化した方については、家族の意向を優先し、医師や看護師と連携を取りながら安心して過ごしていただけるよう支援している。	契約時の段階で、利用者や家族に重度化や終末期に関する事業所の方針等を説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、本人や家族、医師等と話し合って再確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外の研修を年間計画に取り入れ、全職員が繰り返し勉強している。日ごろの不安に思うことは納得いくまで把握するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に避難訓練を実施している。1回は消防士の参加もあり、初期消火や避難誘導等を指導してもらっている。また非常用品の備蓄もできている。地域との協力体制については会議で話し合っている。	年2回、同一法人の運営する併設の他サービス事業所と協力して避難訓練を実施している。利用者や職員で参加し、消防署の協力も得ている。初期消火や避難誘導の確認を行っている。地震想定訓練時には、落下物等の点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			野バラ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを大切にし、個々に合わせた言葉かけや対応などを心がけている。不適切な言葉使いや態度が見られた時には、管理者から尊厳についての認識を伝えている。	一人ひとりの主体性を大切にした支援に努めている。日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりへの言葉かけにも親しみを込めつつ、敬意をもって接するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができ、希望を表せる利用者には、選んだり決めたりすることをゆっくりと待ち、職員側から決めないよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりはなく、一人ひとりのペースや希望に合わせた支援をしている。起床や就寝、食事、入浴の時間も希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望する美容院へ行ったり、更衣介助の時には本人に服を選んでもらったりしている。乳液やクリームの使用、毛剃りなどにも対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛付などを生き活きとした表情で行っている。職員は利用者には知恵を教えてもらい、感謝の気持ちを伝えるようにしている。負担なくできる範囲の片づけを手伝ってもらっている。	利用者と職員で食卓を囲み、会話を楽しみつつ食事を楽しんでいる。利用者は、食事の一連の準備に携わっている。季節の行事食や誕生会等の献立を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、適切な摂取ができるよう努めている。一人ひとりの咀嚼、嚥下力に合わせて、食事形態を工夫し対応している。またとろみをつけるなど、水分摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態や能力に合わせた口腔ケアを実施している。歯間ブラシを使用し隙間の汚れを取り除いたり、毎食後の口腔の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			野バラ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録することで、一人ひとりの排泄パターンが把握でき、個々にあった支援ができています。できるだけ布パンツで過ごしていただけるよう努めている。またブライドを傷つけないよう配慮している。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、身体状況にも配慮したうえで、トイレでの排泄を支援している。布パンツで過ごす取り組みを行っており、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に牛乳・ヤクルトを飲んでもらったり、毎食後手作りの寒天ゼリーを食べてもらったり、また散歩や体操、腹部マッサージ等も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	家庭での入浴に近づけるよう、夕食前に支援している。一人ひとりの好みの湯加減や習慣を大切に、体調を考慮しながらゆくりと入浴していただいている。同姓介助の希望にも対応している。	事業所では、少なくとも週3回は入浴することができるよう支援している。自宅での入浴習慣を大切に、時間等にも配慮している。入浴を拒む方には、無理強いすること無く、本人に寄り添った支援に努めている。本人が納得して入浴することができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やすことを重視し、好きな時に昼寝や休息もとってもらっている。安心して眠れるような言葉かけを心がけており、室内温度や照明を好みに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病気と服薬、臨時に処方された薬はミスがないよう周知徹底し、三重チェックしている。また日々の状態観察や医師との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や農作業、裁縫等それぞれの得意なことをすることで生き生きと生活している。季節ごとの行事や習わし等も人生の先輩である利用者に教えてもらいながら、一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	神社、寺へのお参り、買い物、自宅や馴染みの場所への外出支援等を行っている。遠足や阿波踊り見物を行い、家族の参加があるときは、親子で楽しめる時間となっている。	利用者一人ひとりの希望に応じて、職員と散歩を行ったり、広告を見て買い物に出かけたりしている。家族の協力を得るなどして、遠足等の外出にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			野バラ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の意見を聞き、支援している。常に小額を入れた財布を持っている人や、外出の時だけ本人に持ってもらい、自分で支払っている人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	野バラ便りや近況報告の手紙を出す時に、利用者にも手紙を書いてもらい、家族も喜んでくれている。また電話をかける支援を行い、良い交流となっている。家族から手紙や電話をいただくこともある、		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の花を生けたり、利用者の作った作品も飾ったりしている。居室には折り紙、塗り絵、書道等の作品を飾り居心地の良い空間に配慮している。	共用空間から、居室への往来がしやすいよう、空間作りに配慮している。壁面には、季節の作品や書道、折り紙を飾ったり、日付や行事を書いたボードを掲示したりしており、一人ひとりが居心地良く過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには大きなソファがあり、ゆったりと座って気の合う人同士で話をしたり、一緒にテレビを見て過ごしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物品、家族との写真、好きな絵や花等、一人ひとりの好みに合わせている。	居室には、洗面台やトイレを備え付けており、プライバシーを大切にした構造となっている。また、利用者の使い慣れた家具や電気製品を持ち込んでもらっている。また、利用者によっては写真や趣味のものを飾っており、本人が居心地良く過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の配置、ドアの目印、混乱する物の排除等、一人ひとりの状態に合わせた環境作りに努めている。		